

活用する力を育てる

横浜国立大学
教育人間科学部教授

石田 淳一 氏



教育隨想

算数の授業では、問題を解決しながら新しい知識を習得することが多い。しかし、習得した知識を新しい学習や日常生活の問題解決に活用する機会となれば、どれほどあるだろうか。

平成十九年度から実施された全国学力・学習状況調査の主として活用を問うB問題では、授業で学習した知識や技能を教科学習や日常生活、さらには他教科の学習場面で活用できる力が試されている。算数科の場合、十九年度や二十年度の結果からは、知識を問うA問題の正答率に比べて、B問題の正答率が低いことが明らかになつた。したがつて、これから算数の授業では、既習の知識を活用していることを実感させること、前述した活用すること自体についての知識をもたせることも考慮すべきである。

私は、「活用する力」を育てるため、「生活から算数を見つける力」「情報を見る力」「論理的に考える力」「表現する力」の六つの観点をあげたい。そして、これらの観点を意識し、指導法の工夫・改善を行つた授業を行うことが大切であると考える。

この三月、岡崎市算数・数学教育研究部の先生方の執筆により、「活用する力を育てる算数ワークシート集（低学年・中学年・高学年編）」が出版された。かねがね、普通の算

く、全国の児童の「活用する力」の育成に寄与できることを願つている。

（いしだ じゅんいち）



平成21年6月1日

6月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育隨想	1
横浜国立大学 教育人間科学部教授 石田 淳一氏	
この人に聞く	2
吟劍詩舞天辰神容流師範 長坂恵里子氏	
羅針盤	2
葵中学校長 菅沼 国雄	
ふれあい	3
梅園小 柚木 弓	
特集	4
おかざき自然体験の森	
平成21年度 岡崎市の教育予算	6
お知らせ	8
フォト・ヒストリー 校舎建築作業（昭和25年）	10
この本を	10



昨年九月、東京で開催された「全国剣詩舞コンクール決勝大会」。その詩舞青年の部で優勝した長坂恵里子さん。稽古場には、そのときの特大のトロフィーが飾られていた。

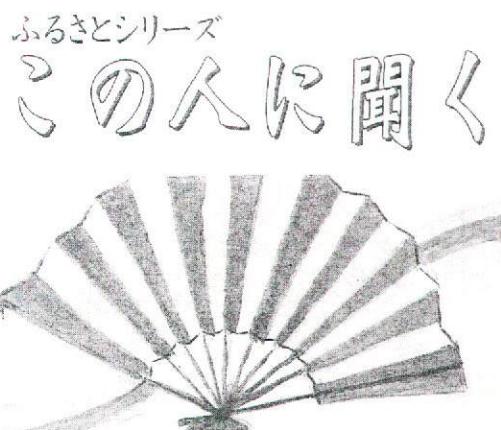
「三歳で伯母に誘われて始めたのですが、そのころは楽しいとかつらいとか、あまり感じたことはありませんでしたね。緊張した面持ちで語り始めた。

「本当に楽しいなと感じたのは、初めて全国大会に出場した時ですね。一生懸命頑張れば結果がついてくる」と、力を込めて語る。

周りの人たちの おかげで

長坂恵里子 氏

吟劍詩舞天辰神谷流師範



うようになりました。」

稽古着に着替えた恵里子さん。姿勢がよく、小柄な体が大きく見える。「中学も高校も、踊りと部活動の両立で苦労しました。ソフトテニス部に入っていましたが、稽古があつたため、選手にもなれず、友達と遊ぶ時間もあまりありませんでした。でも、そのことを後悔したことはありません」と、きつぱりと答える。

小さいころから欲のない子で、稽古場でもいちばん隅っこで過ごしている子でしたと、伯母さんが口を添えられた。それでも、現在に至るまでずっと詩舞を続けてきた恵里子さん。何が彼女をそうさせたのかと、尋ねてみると、

「詩舞を続けてきたことで、生活に

めりはりがあったのです。詩舞は、わたしの生活の一部だったような気がします。学校以外にも自分の居場所があったことは、幸せなことだつ

(氏名 ながさかえりこ)
住所 岡崎市筒針町



礼と節を重んじる詩舞の世界。詩舞で心がけていることは何だろうか。「詩心を得て舞うよう意識しています。漢文や歴史の勉強も欠かせません。」

厳しい稽古と学校生活、勤務との両立には苦労したらしい。

「本当は一人だつたらやめていたかもしれません。師匠はとても厳しい人で、伸びようとする気持ちが感じられないときは、何も言つてくれません。一緒に稽古する仲間や、わたしを支えてくれた周りの人たちがいたから続けられたのだと思います。」

今後の目標を尋ねると、

「剣舞でも日本一になりたいです。重い剣を持つて舞うために、もつと体を鍛えなくてはなりません。そして、多くの先輩のように、今度は私が、後輩たちの役に立ちたいと考えています。」

と、笑顔を交えて答えた。

物静かな雰囲気の中にも、搖るぎない信念を持っていることが、言葉の端々に感じられた。

カーネギーホールをはじめ、海外での公演も、大成功を収めていると聞く。

日本一を手にしても、支えてくれた人たちのことを忘れないその姿勢に、恵里子さんの謙虚な人柄が垣間見られた。

和して同ぜず

葵中学校長 菅沼国雄



学校現場も様々な個性を持った教師集団の一つである。個々の教師の個性を生かし、教師集団をまとめ上げ、

自校の教育力を高め、学校の教育目標を達成するのが校長の重要な使命・

指導力である。新しい教育基本法や学習指導要領でも、学校の主体性とともに校長等のリーダーシップの必要性が謳われている。しばらく続くであろう、教員の大量退職期にあることを考

えると殊更に重要である。

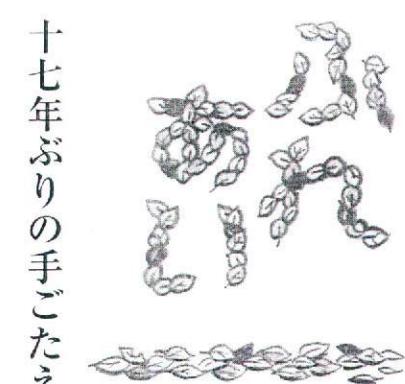
教育には、不易と流行があるとよく言われる。教育はいつの時代においても人を育てる営み・人格の完成であることに変わりない。我々教師が不易を大切にする所以がここにある。しかし、現在の学校では、世の中の変化や社会のニーズに対応することも望まれている。校長はその見極めがいる。

さて、集団の中には、何事も同調するいわば事なき主義とか、横並

十七年ぶりの手ごたえ

梅園小学校 柿木弓

十七年間の子育てを終え、復帰後初めて担任する六年生。縁あって出会うことになった子供たちの中で、学力は優れているものの、文章を書くことなど自己表現の苦手なA子の存在が気にかかった。このA子を、学級の一員として位置付けることができるであろうか。そんな不安とかすかな期待の入り乱れる中、学級開きの日がきた。その日、教室へ一步足を踏み入れたとき、教室の片隅で教科書の包み紙を黙々と片付けていた女の子が目に入った。彼女が、A子だった。その瞬間に、彼女が自分をさらけ出せるような居心地の良い学級作りがしたい。いや、しなくてはいけない。そして、教師も子供もわくわくときどきしながら日々過ごしたい、と心の底から思つた。どうするために、教師を含めて学級全員が、互いを理解し、認め合う場が必要となつてくる。その場こそが、学級通信だつた。



半年が過ぎ、集団としての力強さを感じられるようになつた十月のある日。A子が、初めて、学芸会の練習に打ち込む友達について日記に書いてきた。そこには、自分と対照的な、よりよい学級を目指そうとしているB子の良さと、自分を変えようともがいて自分の姿が書かれていた。その日記帳を手にしたとき、「今こそが、子供たちの心にゆさぶりをかけるチャンス」と確信した。

さつそくA子の日記を学級通信で紹介した。更に、学級内の出来事や友達の思いをキヤッチする心の目を養うために、各自個人新聞を発行させることにし、書き方を指導した。

それからというものの、文章を書くことの楽しさを知ったA子は、今までの学級内の友達の言動や、それにに対する自分の考えを日記や個人新聞に書いてくるようになつた。

しばらくして、そんなA子の変化を認める声が学級内のあちらこちらから沸いてきた。ある日、B子が、「A子さんの文章を書くのは大嫌いだけど、A子さんのおかげで書くことをつかんだ」と、日記に書いてきた。



すかさず、翌日の通信に掲載し、子供たちが登校する前に、机上に配つておいた。登校してきた子供たちは、それを読み終え、A子の元へ駆け寄り拍手を送つた。気が付くと、A子は、友達の輪の中心で、少し照れながら笑顔で立つていた。この瞬間から、引っ込み思案だったA子は、自分を表現することの楽しさを知り、自信をもつて笑顔で生活するA子へと変容した。また、学級全体も変わつた。保護者からも、「卒業間近になつて、時間があれば文章を書いている」と、感動の声が上がつていただけた。

こうした子供たちだからこそ、学級の足跡を自分の言葉で書き続け、全員が「百枚文集」を完成させることができた。

卒業式当日、きらりと光る涙をぬぐうこともなく、赤いじゅうたんの上を堂々と胸を張つて歩くA子の姿がまぶしかつた。まさに、学級経営に手ごたえを感じる瞬間だつた。

だれにでも、時には自分の考えが受け入れられずに仕事をしなければならないこともある。その場合、反対意見を取り入れず、保留したまま仕事に従うか、納得するまで自説を述べて、決着したら自説を撤回して仕事に専念するか、どちらがよいのだろうか。

論語に「君子は和して同せず、小人は同じて和せず」という言葉がある。(君子は他人と心から同調し、うわべだけで同調することはない。小人はうわべの同調はするが、心から一致することはないという意味)

学校には、運営や教育活動に対して様々な考え方や意見も寄せられる。すべてにおいて和することは不可能であるからこそ、教育の本質を見極め、信頼される学校づくりをせねばならない。



▲ カエルの卵の観察（奥殿小）

平成十四年十月、岡崎市八ツ木町に、「市民参加型・環境教育の拠点」を目指して、「おかざき自然体験の森」が開設された。毎年、市内外を問わず、一万九千人前後の人々が、この森を訪れているという。現在まで、ここを活動の場とする市民活動団体によって、自然体験型の環境プログラムが企画、実践されている。また、それを支える豊かな里山の保全も、市民ボランティアなどの協力を得て進められている。

平成十八年度からは、市内の保育園、幼稚園を対象にした「おかざきエコプロジェクト」が開催されるようになった。小学校へつながる環境教育を推進するため、直接的な自然体験を通して、子供たちが環境問題に目を向ける機会になつている。

また、市内の小・中学校は、環境教室や農業体験の場として、学年単位で、あるいは学級単位で活用している。総合的な学習の時間の内容と関連づけ、里山を手入れして若返らせる「森づくり教室」、森の竹林の手入れによってできた発生材を炭にする「炭焼き体験」などを行っている学校がある。また、身近な自然散策の場として活用している学校もある。中学校では、職業体験の一環として、農業体験に参加する実践例が多い。

さらに、自然への気づきを目的とする、子供たちを対象にした「わんぱく森の子クラブ」などの活動も、市民活動団体の手で行われている。

まずは、環境教育への第一歩として、子供たちと共に、その豊かな自然にふれてみたい。



▲ 落ち葉の観察（緑丘保育園）

環境教室のモデル

（二時間コース）

- ・散策（あずまや）
- ・自然体験の森に生きる生物紹介

（半日コース）

- ・散策（自然観察）
- ・自然体験（選択）

森の工作

- ・炭焼き体験
- ・竹材づくりなど

（全日コース）

- ・散策（選択）
- ・自然観察

山歩き（健康づくり）

- ・自然体験（選択）
- ・テーマ別学習

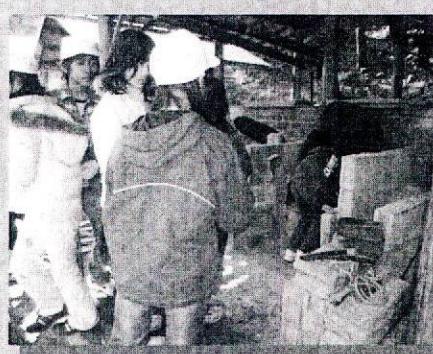
カエルの産卵観察

- ・炭焼き体験など

自然から学ぶ

本校では、低学年の中遠足で利用させていただいた。山の中を自由に散策しながら、自然と触れ合ったり、ビオトープを観察したりできた。自然への関心と遊びへの意欲がいっぱいの低学年の児童にとって、とても楽しく過ごすことができる施設であった。近年、細川学区でも新たに住宅地が開発され、自然も徐々に減りつつある。自然を身近に体験できることのありがたさや楽しさを、今後もこの施設を利用していただきながら、児童に伝えていきたい。

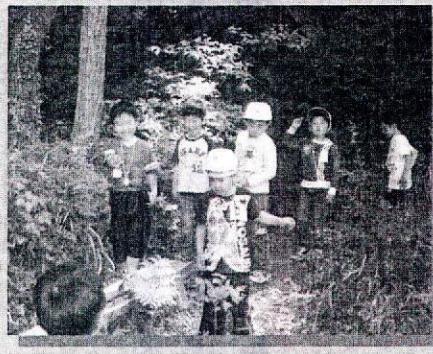
(細川小 教師)



▲炭焼き体験（愛宕小）



▲農業体験（葵中）



▲散策路での草木の採集（細川小）

竹林に生えている古い竹を切りました。足場の悪いところで竹を切るのはたいへんでした。おじさんの話から、切った竹で炭を作ったり、竹ぼうきの柄にしたりすることが分かりました。

（緑丘小 五年生）

人から学ぶ

「わんぱく森の子クラブ」の活動



三浦指導員の話に聞き入る
生徒たち（南中）

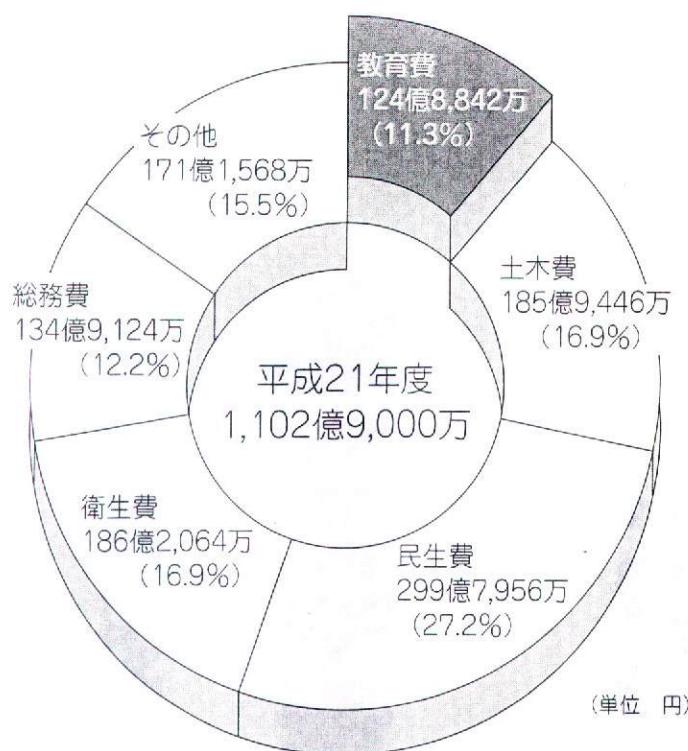


こんなにやく作り体験

体験の森には、かけがえのない動物たちがたくさん暮らしています。彼らは自分の命を守ることを最優先に考え、行動しています。それは、生き物としての自然な姿であり、私たちが忘れていることもあります。

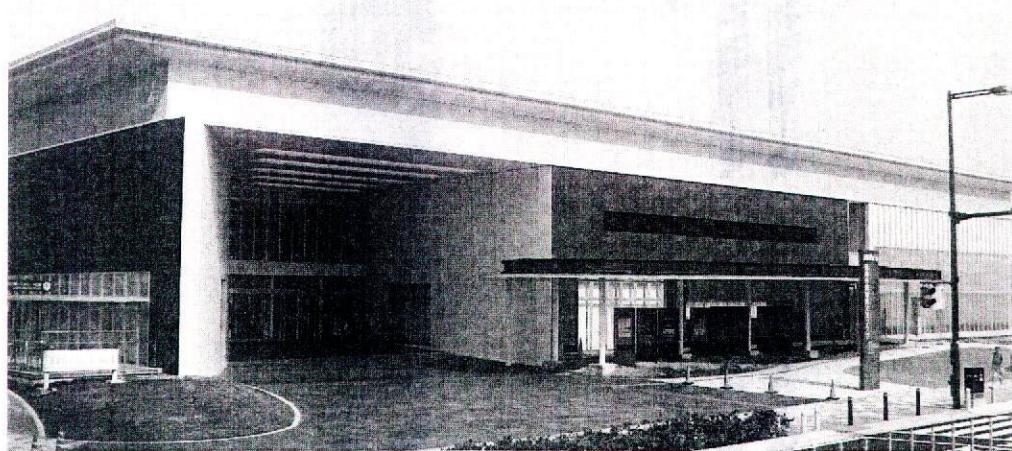
この体験の森での一瞬の出会いの中に、人間として学ぶことはたくさんあります。そのような事例を、多くの子どもと一緒に考えたいと思っています。（三浦重光指導員）

〈一般会計予算〉



安心して暮らせるまちづくり

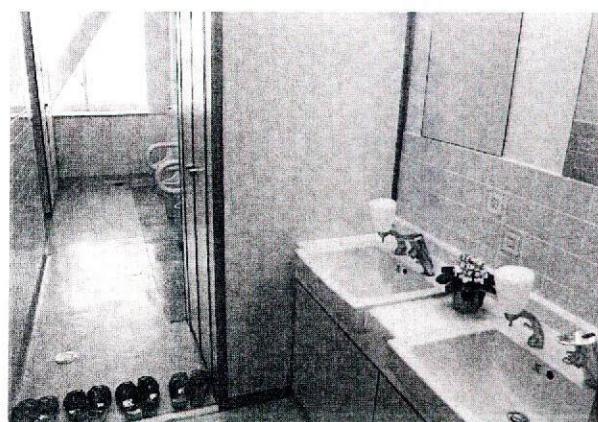
平成二十一年度
岡崎市の教育予算



▲りぶら

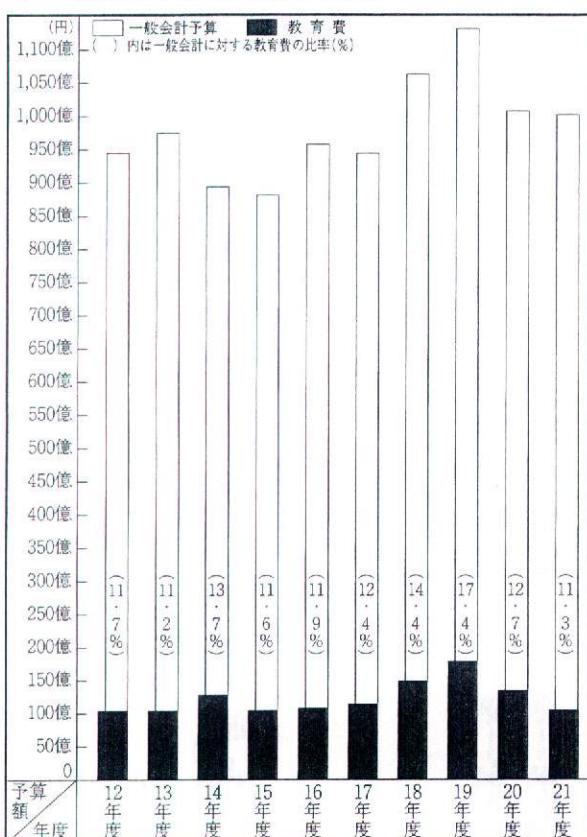


▲竜海中プール

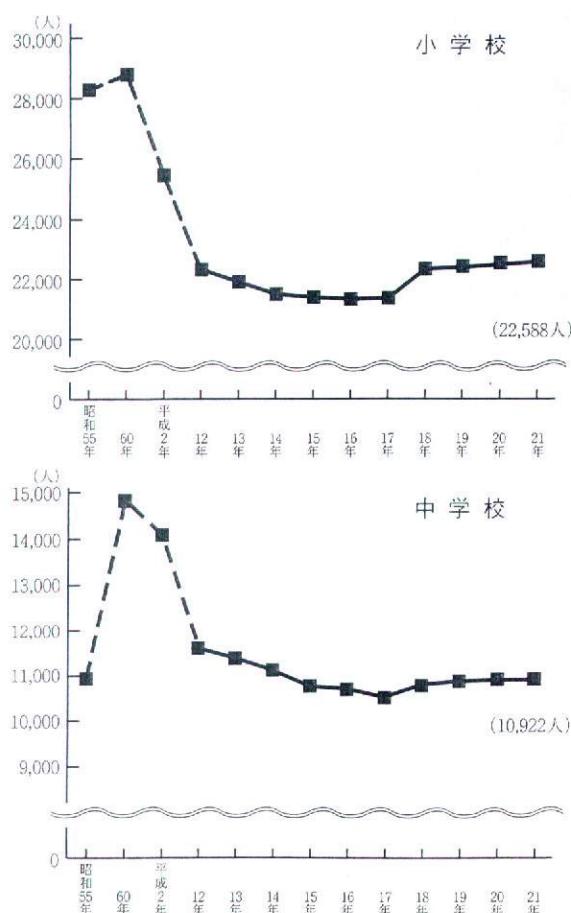


▲南中トイレ改修

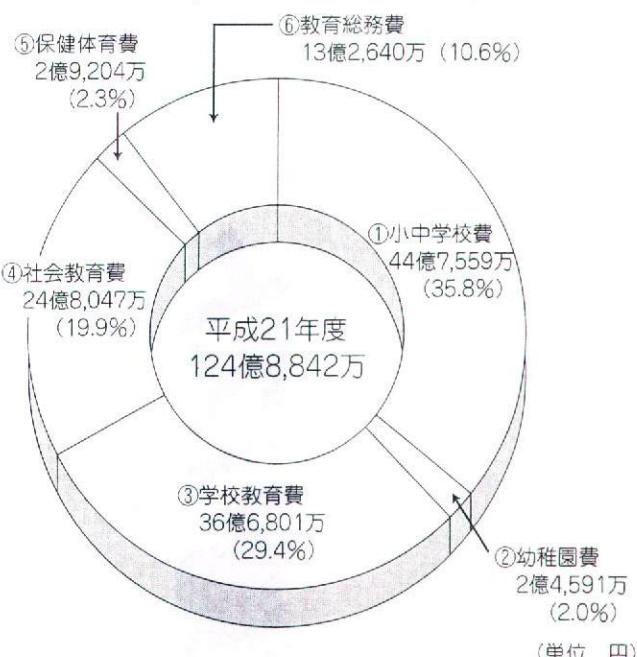
◆ 一般会計予算と教育費の推移



◆ 児童・生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



<教育費の内訳>



(単位 円)

◆ 平成 21 年度のあらまし ◆

- ① 小中学校費
緊急地震速報整備（額田地区小学校8校・額田中）
校舎屋上防水改修（男川小・本宿小・矢作北小）
下水処理切替（恵田小・矢作北小）
プール本体改修（六ツ美中部小）
プール改修（額田中）
便所改修（大樹寺小・細川小・六ツ美中）
校舎外壁改修（男川小・矢作東小・矢作北小・矢作中）
空調改修（小学校5校・矢作中・甲山中）
校内 LAN 整備（美合小・緑丘小・岡崎小・常磐小・岩津中・矢作中）
校舎増築（矢作南小）
校舎耐震補強、天井扇設置（六名小・竜谷小・矢作北小・六ツ美中部小・六ツ美北部小・矢作東小・根石小・男川小・三島小・藤川小・山中小・東海中・矢作中）
屋内運動場天井改修（山中小・六ツ美北部小・緑丘小・岡崎小・竜谷小・生平小・竜美丘小・本宿小・矢作南小）
職員室拡張（竜美丘小）
倉庫増築（上地小・河合中）
園舎整備（梅園幼・矢作幼）
行事開催事業委託及び指導研修
教育の振興、研究助成
児童生徒の健康保持
小中学校各種スポーツ大会開催
教員補助者活用事業
外国語指導助手の増員
教育相談センター新設
給食センター施設整備
岡崎市民芸術文化行事開催事業
生涯学習推進事業
青少年健全育成推進事業
文化財整備活用事業
図書館情報システム保守委託
市民センター管理運営及び施設改修
視聴覚ライブラリー管理運営
少年自然の家管理運営及び施設整備
図書館交流プラザ管理運営
市民活動センター運営
太陽の城管理運営
スポーツ振興事業
スポーツ施設整備事業
私立高校授業料補助金
私立幼稚園就園奨励費補助金
奨学資金支給・貸付事業
閉校記念式典開催
- ② 幼稚園費
③ 学校教育費
- ④ 社会教育費
生涯学習推進事業
青少年健全育成推進事業
文化財整備活用事業
図書館情報システム保守委託
市民センター管理運営及び施設改修
視聴覚ライブラリー管理運営
少年自然の家管理運営及び施設整備
図書館交流プラザ管理運営
市民活動センター運営
- ⑤ 保健体育費
太陽の城管理運営
スポーツ振興事業
スポーツ施設整備事業
- ⑥ 教育総務費
私立高校授業料補助金
私立幼稚園就園奨励費補助金
奨学資金支給・貸付事業
閉校記念式典開催

お知らせ



● 教育最新情報

◆ そよかぜ相談

今年度から、昨年度まで行つて来た「不登校相談室事業」と「そよかぜ相談」を一本化する。主な変更点は、次の通りである。

① 教育研究所における教育相談を、すべて「そよかぜ相談」に名称を統一し、不登校・特別支援教育・就学にかかる全ての相談活動を行う。

② 教育研究所における相談活動は、研究所相談員・臨床心理士・登校支援員が行う。

③ 教育研究所の臨床心理士は、研究所において教育相談を行つ。従来のような巡回訪問は、原則として行わない。

なお、平成二十二年一月から、「そよかぜ相談」は、旧竜美丘検診センター改築後の

「教育相談センター」で行う。

◆ 登校支援員活用事業

今年度から、登校支援員活用事業（市独自）が始まり、豊富な教師経験を持つペテラン支援員が三名、教育研究所に配置された。各学校からの要請に応じて、支援員が不登校児童生徒やその保護者に対する相談活動を行つて、小中学生の登校支援体制の一層の充実を図ることを目的に始まつたこの事業は、大きな期待を集めている。

（※要請がある場合は、教育研究所、澤田所長補佐まで）

◆ 市教育委員会委嘱の研究発表

六月に、次の二校で市委嘱の研究発表会が行われる。

○ 矢作北小学校

（六月二十四日）

研究主題は「いのちの教育

」

研究主題は「心の育成

」

●表彰

◆第七回ジユニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会	
(打楽器六重奏)	
優秀賞 美川中三年 熊谷渚	
近藤千詳 徳井晃子	
二年 石川絵梨 新田莉乃	
福木麻由	
◆わんぱく宣言二〇〇九年第六回	
全国こども作文・スピーチコンテスト 小学校高学年の部	
ベストスピーチ賞	
北野小四年 松葉ゆい	
◆第二十一回管楽器個人・重奏コンテスト 東海北陸本大会	
(ユーフォニアム独奏)	
優秀賞 南中三年 平岩真帆	
優秀賞 竜海中三年 井土歩美	
最優秀伴奏者賞	
(フルート独奏)	
優秀賞 竜海中三年 子安夏琳	
(打楽器六重奏)	
優秀賞 美川中三年 熊谷渚	
近藤千詳 徳井晃子	
二年 石川絵梨 新田莉乃	
福木麻由	
(サキソフォン四重奏)	
優秀賞 竜海中三年 倉本千瑛	
岡田朋子	
二年 鈴木有那	
森本実咲	

厳しい財政状況の中、本年度の市独自予算による教員補助者の数は、昨年度より六名示した。

●小中学校のようす

◆第二十一回管楽器個人・重奏コンテスト 東海北陸本大会	
(ユーフォニアム独奏)	
優秀賞 南中三年 平岩真帆	
優秀賞 竜海中三年 井土歩美	
最優秀伴奏者賞	
(フルート独奏)	
優秀賞 竜海中三年 子安夏琳	
(打楽器六重奏)	
優秀賞 美川中三年 熊谷渚	
近藤千詳 徳井晃子	
二年 石川絵梨 新田莉乃	
福木麻由	
(サキソフォン四重奏)	
優秀賞 竜海中三年 倉本千瑛	
岡田朋子	
二年 鈴木有那	
森本実咲	

○少人数学級

今年度から、小学校一、二年に加えて、小学校一、二年生においても、三十五人以下の学級編制が適用された。これによつて、学級増になつた中学校は、十五校あつた。

さらに、ALTも一名増員し、小学校に配置することができた。

また、今年度から、市内すべての小学校の五・六年生において、英語活動が実施されたことに伴い、英語補助者が昨年度より十一名増員された。

●学校・学級の規模（市内平均）

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	452人	575人
1校当たり学級数	16学級	18学級
1学級当たり児童・生徒数	28人	32人

●学年別児童・生徒数（人）

	小学校						中学校		
	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年
男	1,966	1,895	1,920	1,950	1,990	1,905	1,865	1,871	1,857
女	1,795	1,848	1,856	1,817	1,827	1,819	1,795	1,722	1,812
計	3,761	3,743	3,776	3,767	3,817	3,724	3,660	3,593	3,669

●児童・生徒・教職員数

区分	学校数 (校)	学級 (特別支援) (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教頭・教諭(人)			栄養教諭・職員 (人)	事務職員 (人)	養護教諭 (人)
			男	女	計	男	女	計			
小学校	50	809 < 72 >	11,626	10,962	22,588	465	636	1,101	11	54	53
中学校	19	344 < 35 >	5,593	5,329	10,922	389	250	639	4	25	23
合計	69	1,153 < 107 >	17,219	16,291	33,510	854	886	1,740	15	79	76

・カ
ツ
ト
六ツ美中　土井誠司

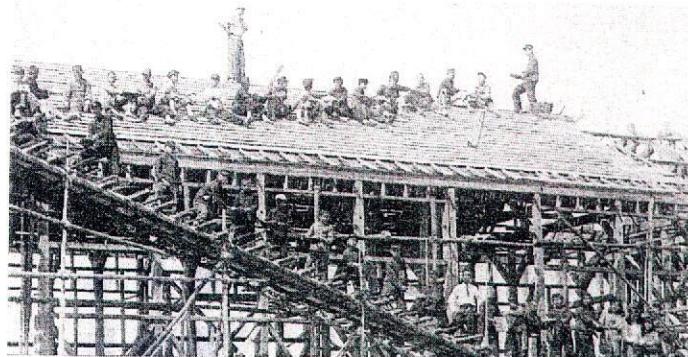
校舎建築作業

(昭和25年)

写真提供：美川中学校

第二次世界大戦が終わり、昭和二十二年に新学制が始まった。岡崎市にも五つの中学校が設置され、新しい木造校舎が次々と建てられていった。

この写真は、美川中学校の新校舎の建築作業の様子である。生徒たちも、瓦などを運び、建築を手伝つた。戦後の混乱がまだ残り、釘が不足していたため、生徒が焼け釘を集め、伸ばして使つたそうである。写真の校舎は、昭和二十五年に無事完工式を迎えた。それまで美合小学校の校舎を間借りしていた生徒たちにとっては、夢の新校舎であった。



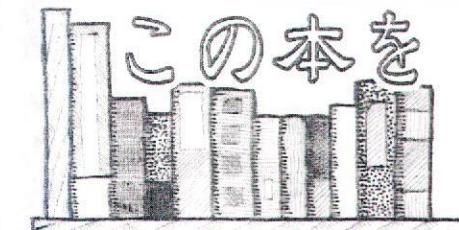
岡崎市が生んだ若き「日本」は、日ごろの鍛錬、稽古の厳しさを感じさせない、おつとりとした女性であった。しかし、言葉を選びながら語る姿からは、内に秘めたエネルギーや搖るぎない信念が感じられた。「日本」を目指す人には、厳しさやつらさを楽しさや喜びに置き換える心も備わっているのだろう。

仕事の手を休め、しばし教室の窓から外に目をやる。

遠くに見える青田を渡つてきたのであろうか、吹き込む風が何とも心地よい。そつと目を落とすと、アジサイの花が川辺に彩りを添えている。そこに、育ってきた蚕の幼虫を放す日も近い。

**シ
オ
ス
ア**

スペースシャトルから見る地球は、とても美しいことだろう。若田光一さんが、宇宙での生活を始めてから二ヶ月半がたつ。「もっと多くの人に宇宙での滞在を体験してもらいたい、宇宙から地球を眺めてほしい。」若田さんの言葉である。近い将来、目の前にいる子供たちがその体験をしているかもしれない。



*子どもが危ない

江原 啓之

¥500

*父よ母よ

吉村 英夫

¥1,030

学陽書房

*奇跡のリンゴ

石川 拓治

¥1,300

幻冬舎

*6歳のお嫁さん

鈴木 中人

¥1,200

実業之日本社

*小さな言葉の大きな力

森久保安美

¥1,500

手紙作文コンクールの郵政大臣賞作品に、「小学校の卒業記念に、校長先生が、『花は色 そして香り 人は心 そしてやさしさ』と書いた色紙をくださいた」という一文がある。

最近、子供たちの言葉遣いがとても気にかかる。でも、時折、何気ない言葉や文章の中に、はっと驚かされたり優しい心を感じたりしてうれしくなることがある。言葉を教える側の教師として、子供たちの生き方によい影響を与えることができるよう、言葉を選び、声かけをしていきたい。

矢作北小 夏目 恒男